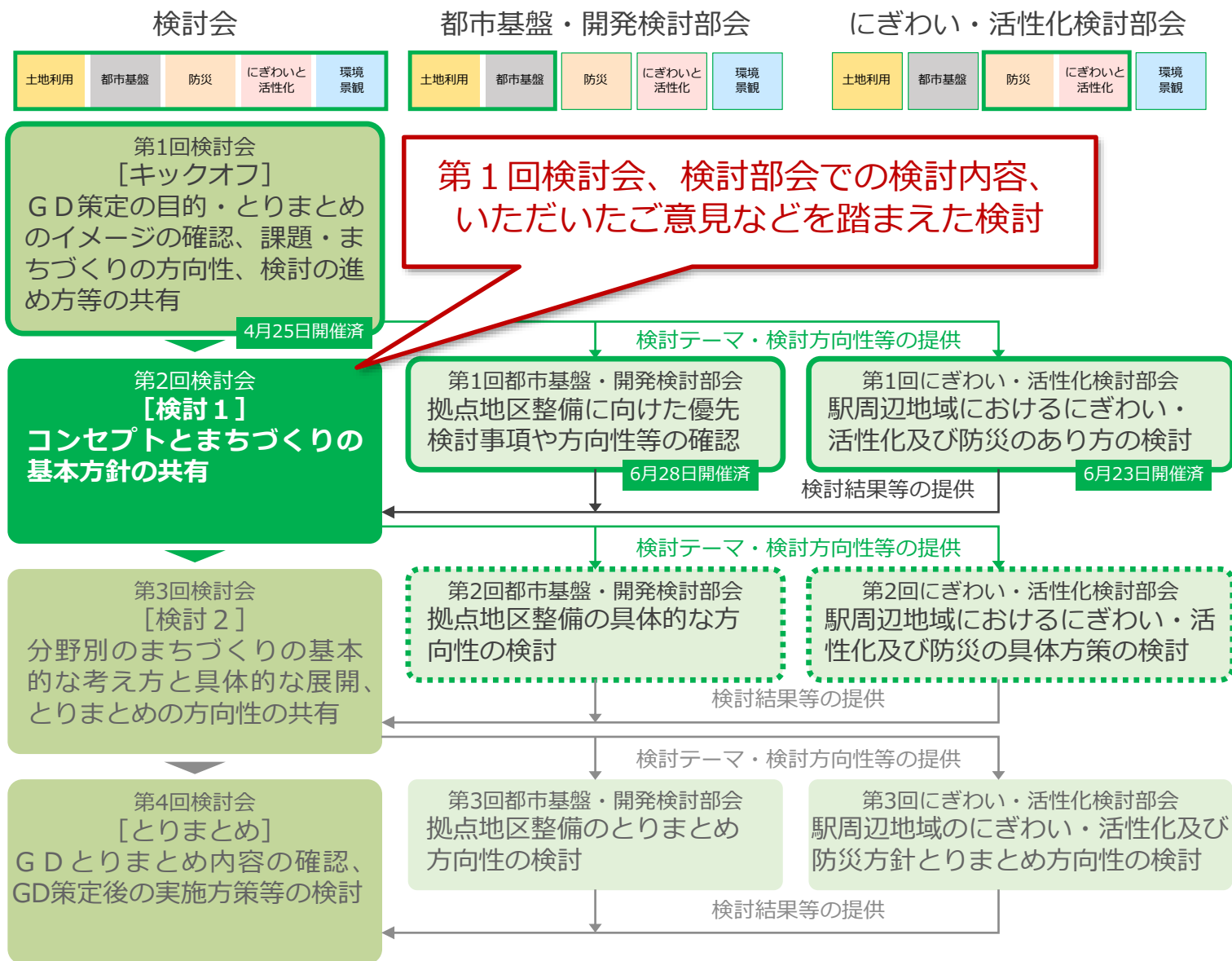


第2回 王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定検討会

平成28年7月25日



本日の検討テーマ



※下記検討テーマは現時点での想定であり、今後変更する可能性があります。

第1回検討会 (4/25) 資料を一部修正

本日の資料構成

1. 第1回検討会の振り返り

検討内容

主な意見

意見を踏まえた現況の整理

2. 第1回検討部会の報告

都市基盤・開発検討部会

にぎわい・活性化検討部会

検討内容

検討内容

+

委員からの主な意見

次回の検討における
重要な視点

+

委員からの主な意見

次回の検討における
重要な視点

※本日の検討事項

3. まちづくりコンセプト

4. 第2回検討部会における検討内容

ランドデザイン内での位置づけ



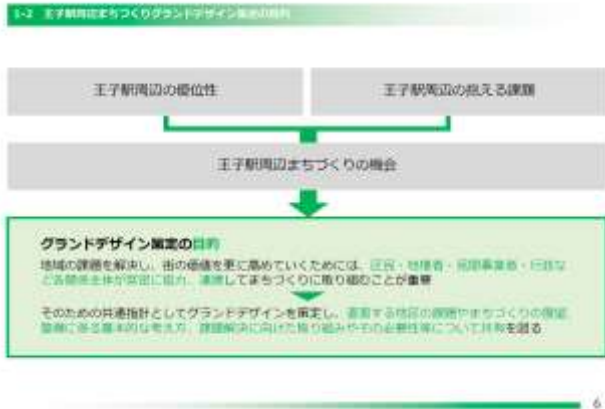
主な内容については、第1回検討会で共有済
→今後の検討、議論の内容を適宜反映して更新

本日の検討会での検討内容は、第3章として位置づけ、それを踏まえて今後の検討を進めていくことを想定

1. 第1回検討会（4/25）の振り返り

1-1 検討内容

目的の共有



とりまとめイメージの共有



課題の共有



コンセプト



まちづくりの方向性



まちづくりスケジュール



■ グランドデザインのあり方と検討の進め方について

1 / 2

広域的な視点の重要性について

- ・ 広域的に、北区全体、東京全体の中での王子の位置付けや戦略を共有することが必要。
- ・ 歩行者回遊性や交通のあり方などを踏まえると、対象区域に限定しない検討が必要。

夢のある構想と具体的な事業について（区庁舎移転を契機としたまちづくり）

- ・ 事業実施にばかり気をとられた縮こまった絵に終わらず、より具体的に理想的なまちの姿を描いていくことが必要。
- ・ 区役所の移転を契機にして具体的な事業を進めたいという思いと、夢のある地域をつくっていききたいという、2つの思いを組み合わせながら、グランドデザインをつくり上げていきたい。
- ・ まちの将来に危機感を持ちつつ、抜本的に、あるべき姿の議論が必要。
- ・ 地元の間からは千載一遇のチャンスであり、100年先を見据えた王子のまちづくりを議論いただきたい。
- ・ 大風呂敷を広げ過ぎると、目の前の事業そのものがうまくいなくなってしまう懸念は共有することが必要。
- ・ 今回がこの地域を整備していくラストチャンスかもしれないことを考えると、北区役所の移転だけに話をとどめず、これを契機として王子駅周辺をさらに魅力的にしていくための考え方や方策を共有したい。

検討の進め方について

- ・ 実現性を見極めをする上で具体的な方策を検討することは大事ではあるが、それをフィードバックし、また基本的な考え方に戻すという、ループの作業が重要。
- ・ これまでの検討で解決できていない点を中心に検討していくことで、具体の話と構想との距離を縮めながらグランドデザインとしてまとめることができるのでは。
- ・ 両部会間でキャッチボールがないと、検討される内容が分離してしまう。整合性が必要。
- ・ にぎわい・活性化検討部会について、あまり硬直的にならずに、にぎわいとはどんな状況か、活性化とはどんな状況なのかという議論が深められると、おのずと進め方が見えてくるのではないか。

■ 王子の優位性や課題について

2 / 2

王子の優位性、まちづくりの戦略について

- 誰に対して、何に対しての優位性を明確にすべき。
- 優位性を保っていく考え方として、地域の中で職住近接を図るための拠点づくりという考え方が必要。
- コンパクトシティでありながら一種のハブといえるような事例に負けないようにしたい。王子はフローとしての交通量が非常に多く、後背地からの人たちを集め、働きに来てもらえるような拠点ができれば、かなり可能性がある。
- 王子にとってのにぎわいや活性化はどのようなものか。将来に向けては、現状からの切り替えも必要なのではないか。

各課題とその解決について

- インフラの面ではキャパシティが圧倒的に不足し、かなり厳しい課題がある。
- 交通空間が大きく、都市活動の空間が食われている。
- 駅の周りが非常に動きにくくなっており、かなりダイナミックな土地の使い方を考えていかないと解けないのでは。
- 木造住宅密集地域の改善というテーマもあり、整備の仕方、考え方については極力具体的な方針を出してもらいたい。
- 南口から飛鳥山公園へのバリアフリーの整備なども進めていただきたい。
- 石神井川の臭気問題なども含め、解決策を具体的に考えていくことが必要。
- 工場の転出などにあわせて人もいなくなってしまう。地元の人たちがいなくなるようなランドデザインをつくっていければ素晴らしい。

いただいたご意見を踏まえ、第1回検討部会、本日の検討会での検討を行う。

世界の中の「東京」の評価、強みと弱み

王子の特性を世界的視点で評価し、東京の中で担うべき役割を明確にすることが必要である。

他の拠点とは異なる「王子の強み」とは？

豊かな地形と自然環境、文化や産業に関わる歴史の継承、まちに根付いた魅力的な飲食店、など

▶ これらを継承・育成強化し、東京の魅力に厚みを加えていくことが求められるのでは？

森記念財団 都市戦略研究所 世界の都市総合ランキング2015より

都市総合ランキング (2015年) 東京の強み・弱み
上位10都市



- 東京は4位 (アジア1位) を維持しているが、5位シンガポールが急速な勢いで追いついてきている
- トップ3都市と比べると、東京は、**文化・交流分野** (海外からの訪問者数、ホテル総数、美術館・博物館数、外国人居住者数等) や、**交通・アクセス分野** (国際線直行便就航都市数、国際線旅客数) が弱み

英・MONOCLE誌「世界で最も住みやすい都市ランキング」より

2015年 世界で最も住みやすい都市ランキング

順位	都市
1位	東京 (2位)
2位	ウィーン (6位)
3位	ベルリン (14位)
4位	メルボルン (3位)
5位	シドニー (11位)
6位	ストックホルム (4位)
7位	バンクーバー (15位)
8位	ヘルシンキ (5位)
9位	ミュンヘン (8位)
10位	チューリッヒ (7位)
〃	コペンハーゲン (1位)

() 内は2014年順位

都市の住みやすさとして、治安、海外との接続性、気候、建物の質、公共交通、寛容性、環境配慮、自然へのアクセス、都市景観、ビジネス環境、健康・医療などを評価したランキング

- 東京は、電車の定時運行や、一流の食材が食べられること、路地裏に立地した飲食店などが高評価を得た
- 巨大都市でありながら、平和で静かな環境が保たれている点が大きな特徴であるとされた

成長・変化を続ける東京 (南への重心移動)

現実の動きを踏まえた上で、「東京の北側がどうあるべきか」「その拠点のひとつとして、王子は何を目指すのか」を論じていくことが重要である。

東京の主要な拠点における床面積の変化

(1991年→2011年)

出典：東京都市白書 CITY VIEW TOKYO



■ 業務：事務所施設の床面積
 ■ 商業：専用商業施設、住商併用施設の床面積
 ■ 住宅：独立住宅、集合住宅の床面積
 ■ 生活：官公庁施設、教育文化施設、厚生医療施設の床面積
 ■ その他：専用工場、住居併用工場、倉庫・運輸関係施設、宿泊施設、スポーツ・興行施設、供給処理施設の床面積

単位：千m²

東京都の都市計画等における現在の「王子」の位置づけ

現在は「生活拠点」に位置づけられているが、「業務商業機能を始めとする都市活動の積極的な集積を図る拠点」とはされていない。

東京都 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (平成26年12月)

中核拠点 等①	都心	大塚町、丸の内、有楽町、内幸町、澁が関、永田町、日本橋、八重洲、京橋、銀座、新橋
	副都心	新宿、渋谷、池袋、大崎、上野・浅草、錦糸町・亀戸、臨海副都心
	新拠点	品川、秋葉原、羽田
	核都市	八王子、立川、多摩ニュータウン、青梅、町田
生活拠点 等②		大井町、武蔵小山、自由が丘、蒲田、大森、三軒茶屋、下北沢、豊島、中野、荻窪、高円寺、王子、練馬、成増、大山、練馬、大泉学園、練馬、竹ノ塚、新小岩、金町、小岩、葛西、八王子みなみ野、吉祥寺、三鷹、武蔵境、府中、調布、鶴川、武蔵小金井、高幡不動、豊田、日野、国分寺、清瀬、国立、田無、ひばりヶ丘、聖蹟桜ヶ丘 など
生活中心地 等③		池上、大岡山、千歳鳥山、成城学園、南阿佐ヶ谷、高島平、光が丘、上石神井、西新井、江北、高砂、一之江、瑞江、北野、高尾、玉川上水、本町・榎地区、三鷹台、分倍河原、つつじヶ丘、鶴江、昭島、秤島、成瀬、東小金井、北小金井、西国分寺、東村山、秋津・新秋津、東久留米、保谷、福生、羽村、小作、箱根ヶ崎、永山、稲城長沼、稲城、秋川、武蔵五日市、谷戸地区・嵐山地区 など

※1 交通利便性などをいかにし業務・ビジネス、商業、文化、飲食サービスなど高度な機能集積により、東京圏の都市活力や都市文化をリードする拠点
 ※2 交通結節点などにおける商業、娯楽、文化、教育などの生活機能などの集積により、幅広いサービスを提供できる広域的な中心性を備えた拠点

王子地域の将来像

土地利用転換などによる市街地整備により、行政・業務・商業機能などが集積し交通結節機能を有した、にぎわいのある拠点を形成するとともに、石神井川や飛鳥山公園を中心とした水と緑に囲まれた憩いの拠点を形成

東京都 新しい都市づくりのための都市開発諸制度活用方針 (平成28年6月改定)



都心等拠点地区

交通結節性が高く、首都としての行政機能、企業の中核的業務機能、大規模な商業施設等が高度に集積し、東京の都市構造を構成する骨格となる地区

一般拠点地区

地域の中心地として人々の活動や生活利便性を支え、地域の就業の場ともなる地区

複合市街地ゾーン

業務商業が高度に集積した都心等の周辺で、都心等の業務商業と連携を図りつつ、より多様な機能が、複合的に展開する市街地が形成されている地域

業務商業機能を始めとする都市活動の積極的な集積を図る拠点であるが、王子地域は、これらの位置づけはなされていない

東京都の都市計画等における「王子」の今後の方向性

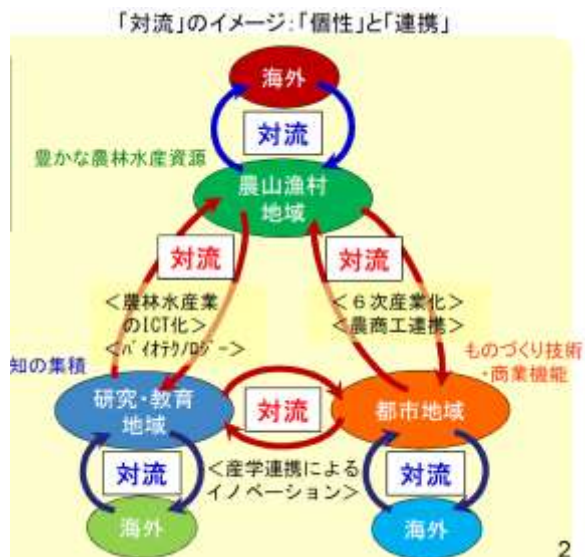
今後の方向性として、王子は「**中枢広域拠点域**」の「**個性ある多様な拠点**」のひとつとして、人の交流を生む場として価値を高めるなどの成長を目指すことになるものと考えられる。

国土形成計画【国土交通省】
 全国計画（平成27年8月）、首都圏広域地方計画（平成28年3月）

本格的な人口減少社会における国土の基本構想：

多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携し生じる地域間のヒト、モノ、カネ、情報等の双方向の活発な動きである「対流」が、全国各地でダイナミックに湧き起こる「対流促進型国土」の形成を図る

東京一極集中から対流型首都圏への転換



東京都都市計画審議会「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について中間のまとめ」（平成28年5月）

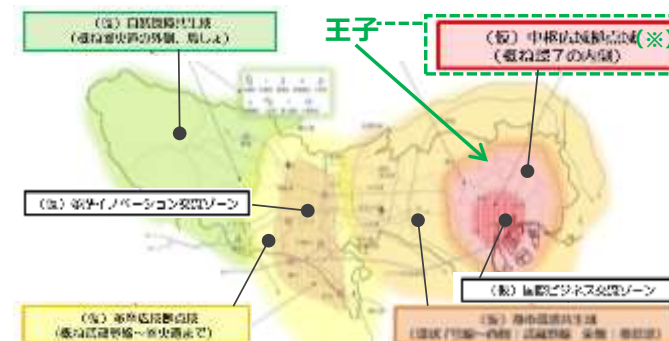
目指すべき都市の理念：

- 高度な都市機能の集積とグローバルな人の交流により、世界中の人々から新たな価値を生み続ける場として選択される都市
- 個性ある多様な地域・拠点において、あらゆる人々が挑戦、活躍でき、質の高い住まい方・働き方・憩い方を選択できる都市

目指すべき都市構造のイメージ

- 環状メガロポリス構造を発展させ、より広域的に「交流・連携・挑戦」を促進する都市構造へ転換
- 「国内外の人・モノ・情報の自由自在な移動と交流」を実現し、経済活力を向上させ、多様なライフスタイルやコミュニティを創出

従来の都心、副都心、新拠点、核都市といった「業務機能を重視した受け皿の育成」の視点から脱却し、「**地域の個性やポテンシャルを最大限発揮し、競い合いながら、新たな価値を創造する個性ある多様な拠点**」へ再構成

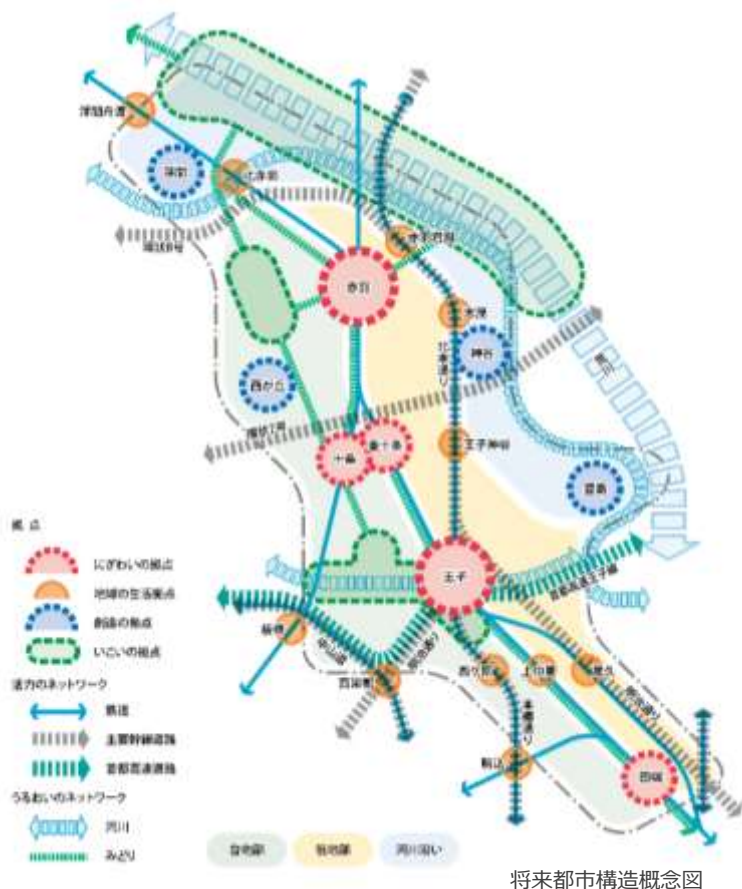


(※) 「中枢広域拠点域」の地域像：
 国際的なビジネス・交流の拠点や芸術・文化など個性ある多様な拠点、複合的な中高密度の市街地が形成

北区の都市計画における「王子」の位置づけ

現在の区のマスタープランでは、赤羽と王子を特に大きい「にぎわいの拠点」に位置づけている。
 「北区の商業中心地」として整備を図る赤羽に対し、王子は、「行政機能を維持」「業務機能、歴史・文化機能・地域商業機能を強化」して、「多様な機能が共存する地区」としての整備を図る、としている。

北区都市計画マスタープラン（平成22年6月）より



(2) 拠点の形成

① 「にぎわいの拠点」の形成

北区のみならず、区外から人を呼び込めるような商業・業務・文化機能などの集積がみられ、今後ともその集積と拠点性の強化を図っていくべき北区の中心的な駅周辺を「にぎわいの拠点」とします。

■赤羽駅周辺

赤羽駅は、埼玉方面から東京都心部や副都心方面への「東京の北の玄関口」です。また区内外各所からバスルートも集中し、「交通の結節点」となっています。

北区内で最も大きな商圏を有している赤羽駅周辺は、こうした立地条件を生かして、地域商業との調和・共存を図りつつ、広域商業や業務機能、文化教育機能を維持・強化し、北区の商業中心地として、整備を図ります。



■王子駅周辺

王子駅は、京浜東北線・南北線及び都電荒川線の乗換駅で、広域バスターミナルもあり、交通機能が集積しています。

また、行政機能の集積地であるほか、飛鳥山や音無親水公園など、北区を代表する歴史ある文化資源の多い地区です。

こうした条件を生かして、行政機能を維持するとともに、業務機能、歴史・文化機能・地域商業機能を強化し、多様な機能が共存する地区として、整備を図ります。



■十条・東十条駅周辺

JR埼京線の十条駅と京浜東北線の東十条駅が近接しており、区内でも屈指の地域商業の集積がみられます。区内の個性として捉えられている温かみのある庶民性が最も顕著に残された地区でもあります。

生活利便性が高い一方、高密度の低層木造住宅地で防災面から市街地の改善が求められており、現在、市街地再開発事業※や埼京線の立体交差化が検討されているとともに、各種まちづくり事業が計画されています。

こうした状況を踏まえ、地域商業・文化・居住の各機能が共存・融合した新しい市街地として刷新を図ります。



■田端駅周辺

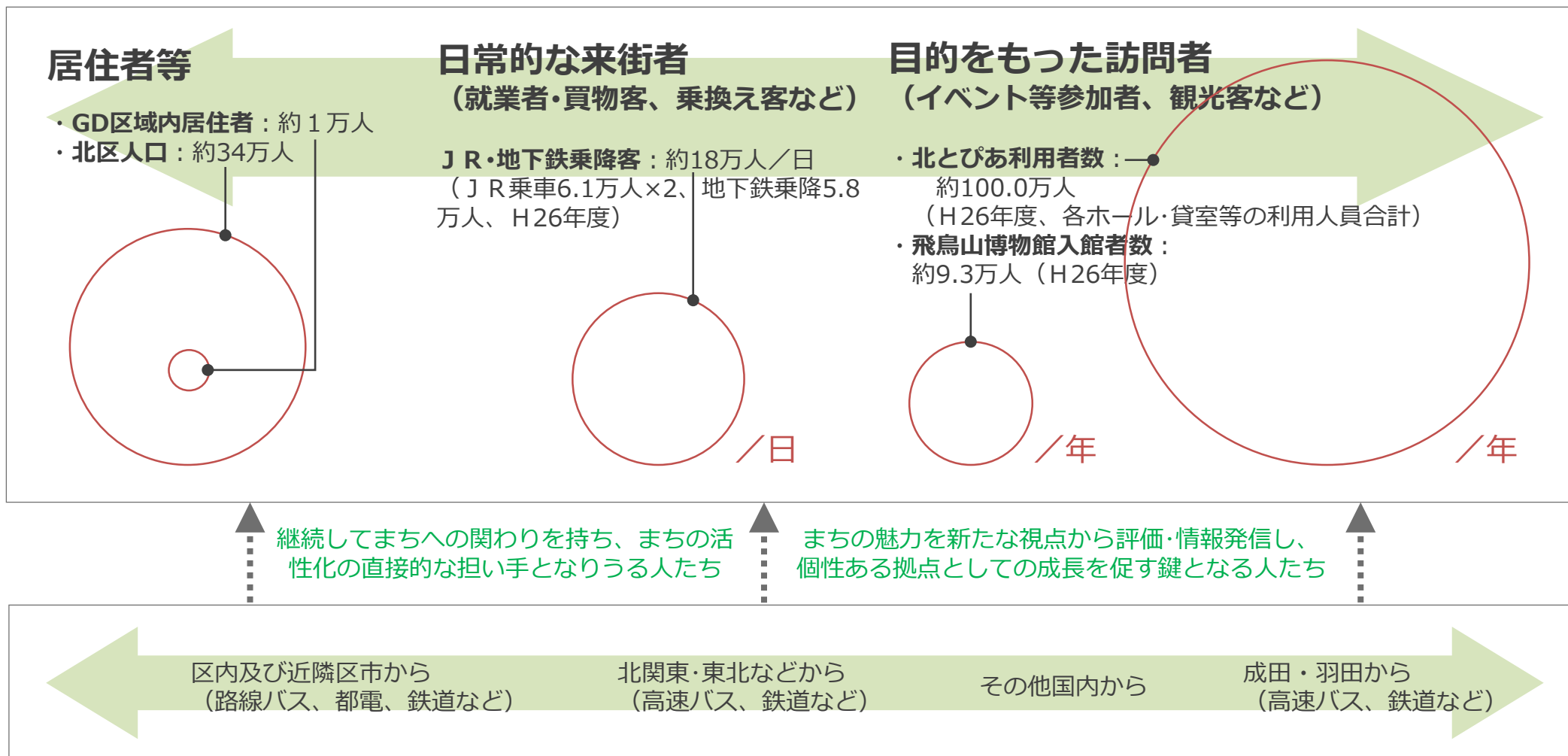
広大なJR操車場があり、工業・商業・居住機能の混在がみられる地区です。また、田端文土村などの文化資源もみられます。JR東日本の東京支社が立地するなど、業務集積がすすみつつあります。

こうした状況を踏まえ、各種機能のバランスを図りながら、北区の南の拠点として整備を図ります。



王子のまちへの多様な関わり方、関係する区域の広がり

多様な地域からの、多様な関わり方をする人たちを取り込みながら、王子の発展につながる道筋を見極めることが重要である。



王子の際立った特徴、個性について ▶①交通結節性に関すること

- 【広範囲に及ぶ駅勢圏】 周辺エリアから数多くの居住者がバスなどでアクセスし、鉄道に乗換える「拠点駅」の性格
- 【地方アクセスの優位性】 特に北方面への効率的な高速バス運行が可能で、ターミナルとしての機能強化も期待される立地
- 【「まち」を介した乗換え】 「駅」と「まち」の一体的な機能強化・魅力向上が特に重要であり、その相乗効果も特に期待される駅構造

路線バス及び都電の利用者数

- ・都心に近い駅の中でも、都電を含む路線バス利用者数が多い駅のひとつとなっている。
- ・アクセス端末バス利用者（家から駅までのバス利用）が、イグレス端末バス利用者（駅から勤務地等まで）に比較して大きい。
- ▶都心近くの駅でありながら、広範囲の居住エリアを後背地として抱える駅であるといえる。

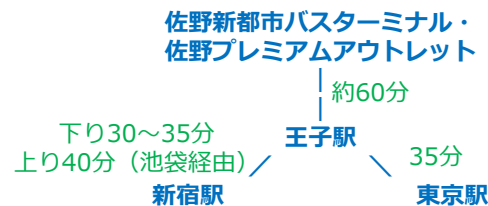
駅別アクセス端末バス利用者数（上位30ターミナル）
 （鉄道定期券利用者のみ。H22年大都市交通センサス調査より）



高速バス

- ・新宿・東京発王子経由の高速バス便が、東北道方面に多数運行。南口駅前広場からは、羽田空港や深夜関西方面行き等も発着。
- ・首都高I Cに近接し、都心一般道の渋滞を避けられる立地。
- ▶新宿・東京駅利用に較べ、北方面への時間短縮のメリットあり。

例：佐野方面高速バスの所要時間



駅施設

- ・JR、地下鉄、都電、バスといった多様な交通モード・多様な交通事業者の集まる駅となっている点が特徴
- ▶交通モード間の多様な乗り継ぎが「まち」を介して行われる駅だといえる。



駅立体図：JR及び東京メトロHPより

王子の際立った特徴、個性について ▶②まちの資源に関すること

【豊かな自然と地形変化】

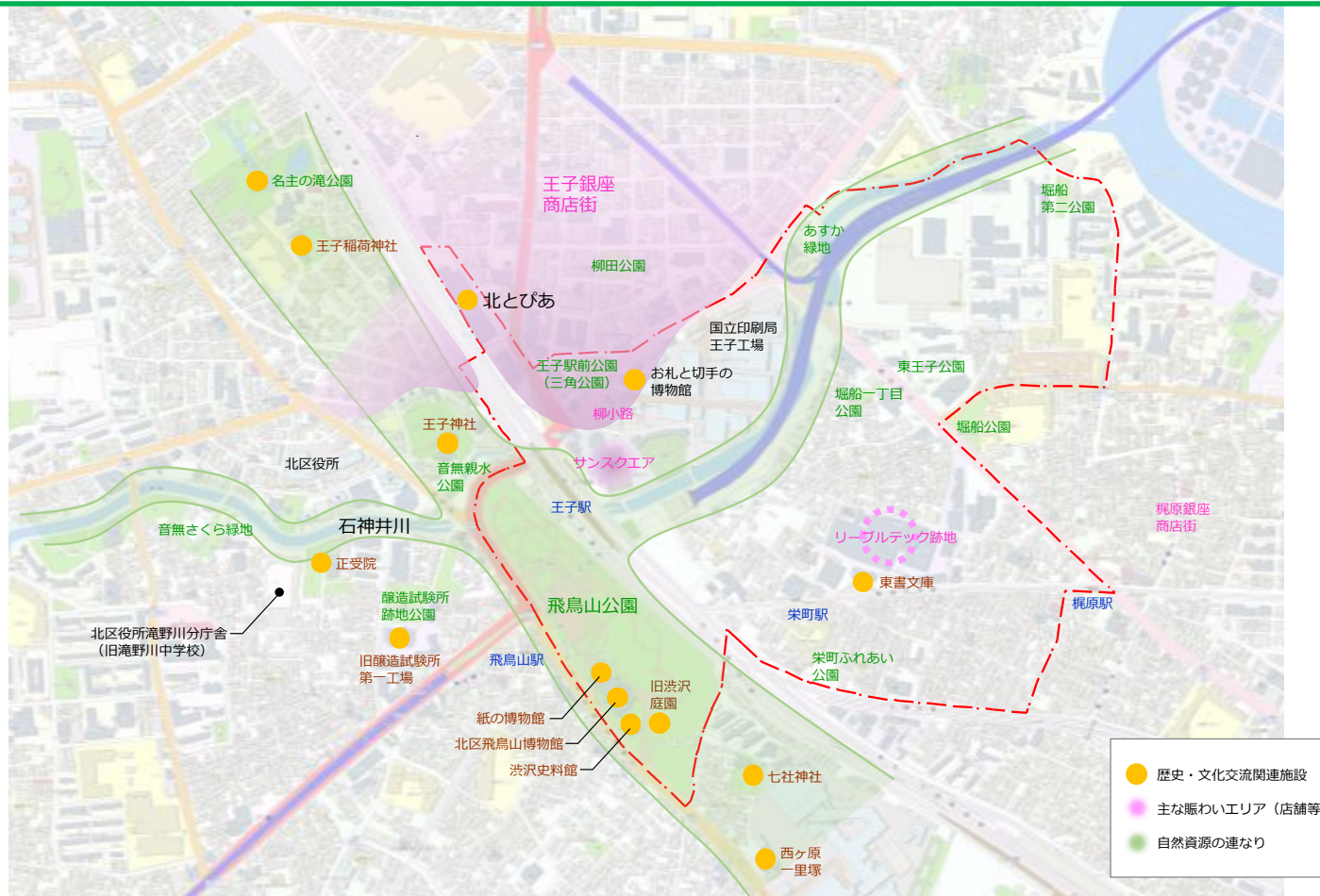
【多様な産業の集積と交流の場】

【歴史に触れる機会】

飛鳥山や石神井川、崖線や坂道・階段など

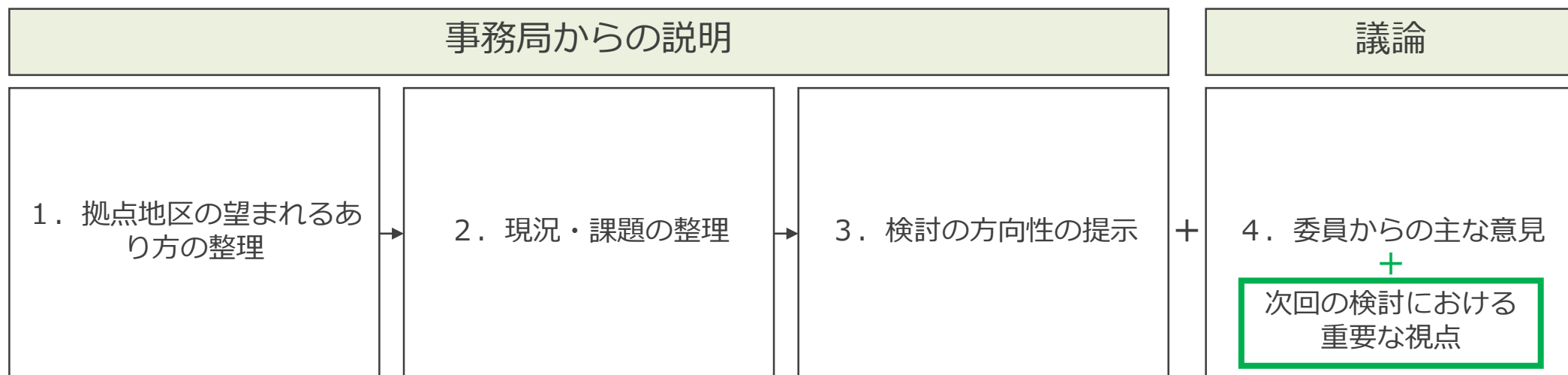
製紙印刷関連をはじめとした事業所、個性ある飲食店、文化・アミューズメント関連施設など

史跡、寺社、歴史的建造物、博物館など



2. 第1回検討部会の報告

第1回都市基盤・開発検討部会（6/28）での検討フレーム



1. 拠点地区の望まれるあり方の整理

望まれる王子駅前「拠点」のあり方

※円が示す範囲：拠点地区整備を考えるに当たって考慮すべき範囲のイメージ

まちへの関わり方 1：居住等

- ・駅へのスムーズな交通（歩行者・自転車など）アクセス
- ・駅での高い公共交通乗換え利便性
- ・乗換え・滞留等のためのゆとりあるスペース
- ・公共・商業・業務機能の充実、教育機能の誘致及び駅からの歩行者アクセスの向上
- ・誇りを持てる街の玄関口としての景観

まちへの関わり方 2：日常的な来街（就業・買物、乗換えなど）

- ・駅での高い公共交通乗換え利便性
- ・乗換え・滞留等のためのゆとりあるスペース
- ・公共・商業・業務機能の充実、教育機能の誘致及び駅からの歩行者アクセスの向上

まちへの関わり方 3：目的をもった訪問（イベント等参加、観光）

- ・駅前から目的地（北とぴあ、飛鳥山など）へのスムーズなアクセスと回遊性
- ・乗換え・滞留等のためのゆとりあるスペース
- ・まちの玄関口としての王子らしい景観
- ・商業機能の充実、宿泊機能の誘致及び駅からの歩行者アクセスの向上
- ・王子の魅力となる特徴的な機能の集積

1. 「交通・駅前空間」に関すること

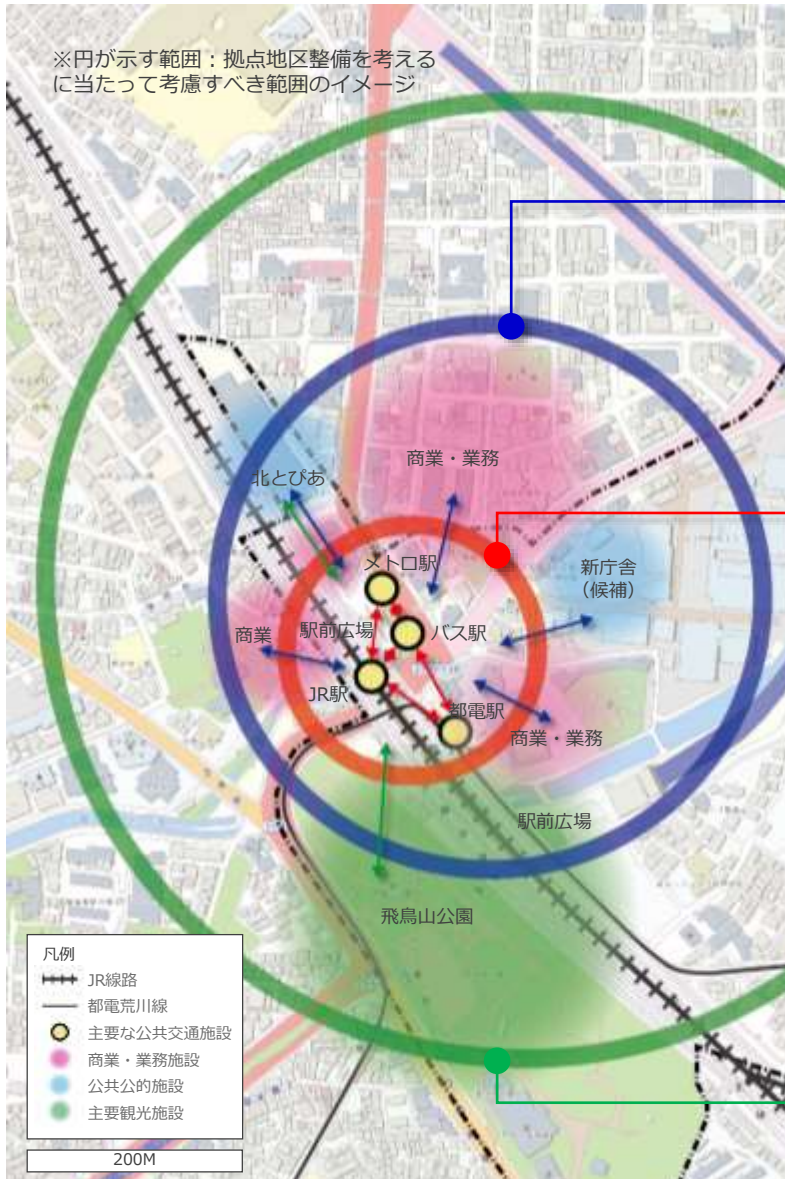
- ・駅へのスムーズな交通（歩行者・自転車など）アクセス
- ・駅前から目的地（北とぴあ、飛鳥山など）へのスムーズなアクセスと回遊性
- ・駅での高い公共交通乗換え利便性
- ・乗換え・滞留等のためのゆとりあるスペース

2. 「土地利用・都市機能」に関すること

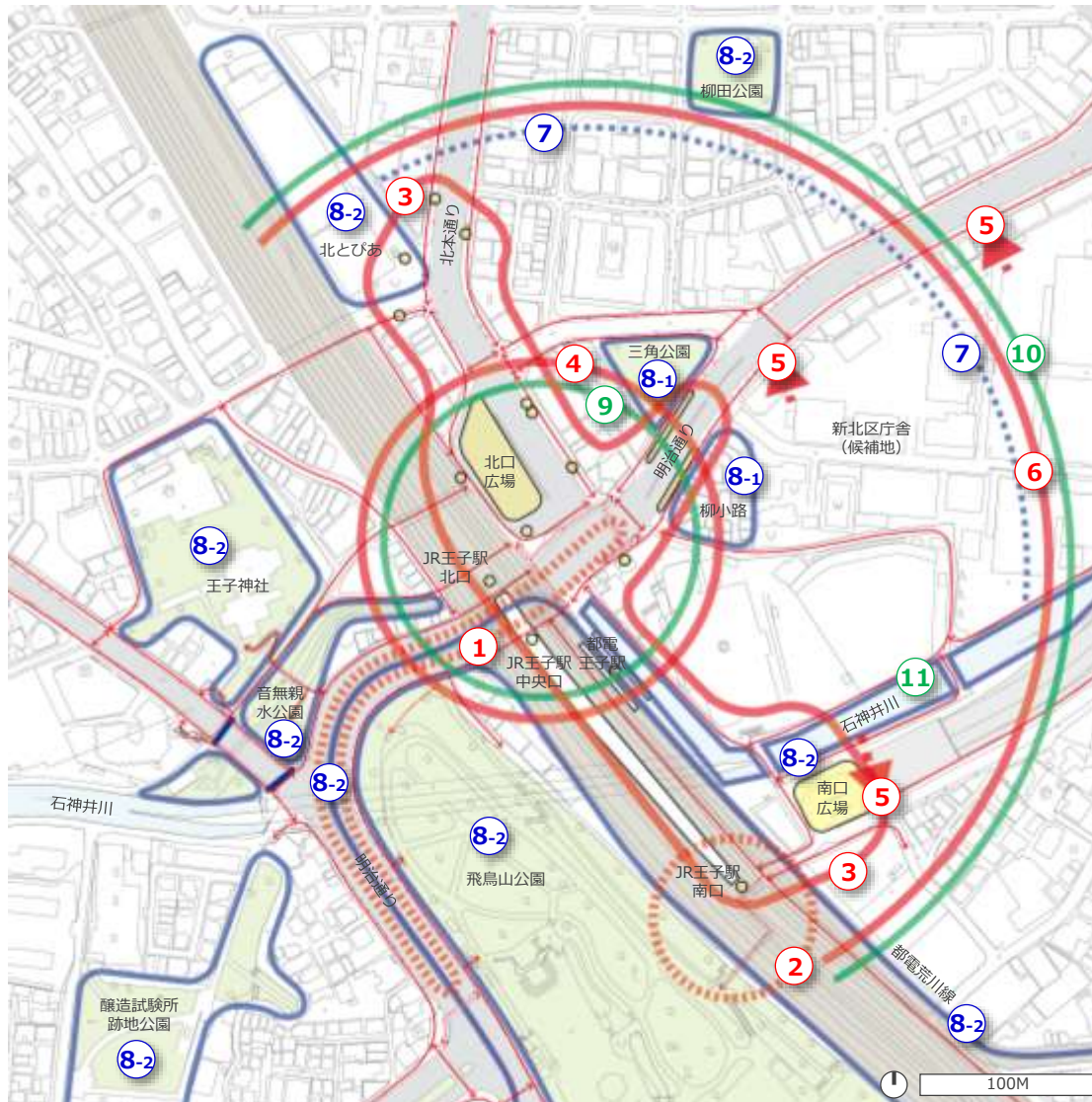
- ・公共・商業・業務機能の充実、教育・宿泊機能の誘致及び駅からの歩行者アクセスの向上
- ・王子の魅力となる特徴的な機能の集積

3. 「景観・緑」に関すること

- ・居住者が誇りを持って、まちの玄関口としての王子らしい景観



2. 現況・課題の整理



凡例	「交通・駅前空間」に関するもの	「土地利用・都市機能」に関するもの	「景観・緑」に関するもの
→	既存歩行者動線	歩行者のアクセスが制限・不十分な箇所	主要な課題がある箇所
○	既存公共交通乗降場・地上出入口	土地の活用が望まれる箇所	緑の不足
○	主要な課題がある箇所		

現況・課題まとめ

1. 「交通・駅前空間」に関すること

歩行者ネットワーク・地域が分断 ※次頁断面図参照

- ① 王子駅周辺において、幹線道路により地上レベルでの歩行者動線および地域が分断
- ② 南口広場から飛鳥山への歩行者動線が不十分

交通関連施設が分散

- ③ 鉄道出入口 (JR、メトロ)、路線・コミュニティ・高速バス乗降場、タクシー・一般車乗降場、都電乗降場などの交通関連施設が幹線道路を隔てて遠く分散

交通空間、歩行者滞留空間ともに不足

- ④ 北口・中央口前において、必要なバス・タクシー・一般車などに対応する交通空間の面積や、十分な歩行者滞留空間が不足

地域間をつなぐ道路整備の必要性

- ⑤ 南口駅前広場へのアクセスや、堀船地区西側の防災性を向上させるとともに、堀船方面の住宅地と王子駅前北側地区それぞれから、新庁舎などを含む新市街地へのアクセスを確保する道路の必要性

自転車駐車が不足

- ⑥ 王子駅周辺において、自転車駐車が不足

2. 「土地利用・都市機能」に関すること

駅前における拠点的機能・魅力的な機能の集積が不足

- ⑦ 新庁舎建設を契機に拠点的機能および、魅力的な機能の集積が望まれる

王子を特徴づける資源の活用が不十分

- ⑧-1 まちづくりを視野に入れ、活用について検討
- ⑧-2 資源として保全・活用

3. 「景観・緑」に関すること

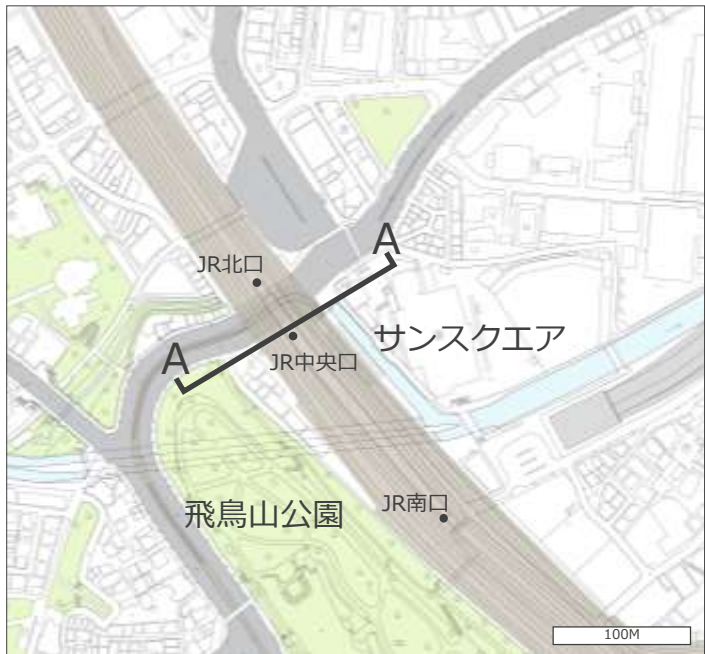
雑然とした駅前景観

- ⑨ 駅前が道路や交通空間に占有されていることなどによる、雑然とした駅前景観

緑の不足

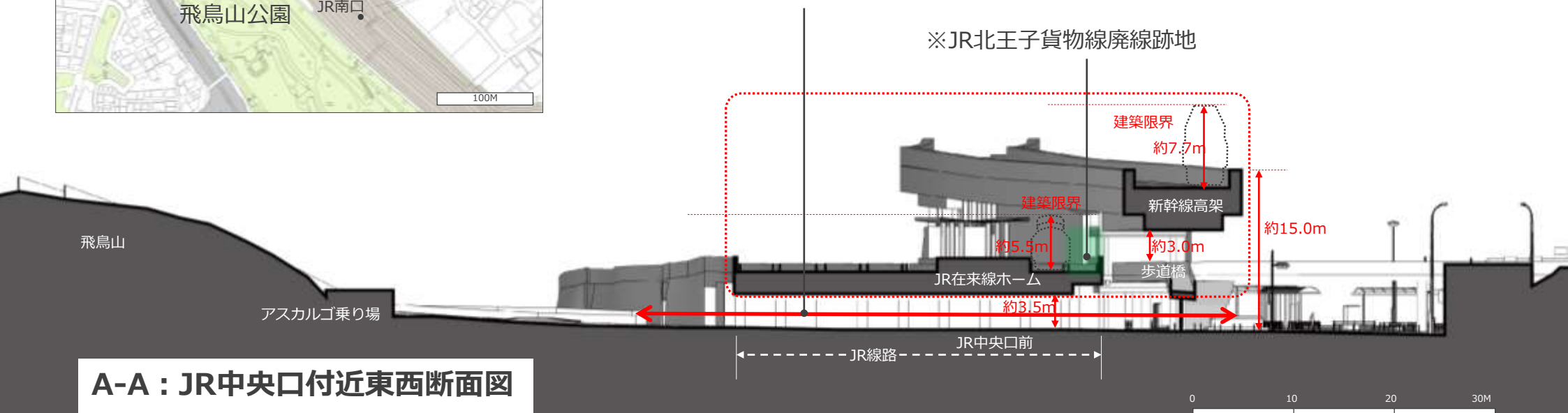
- ⑩ 特に駅東側において緑が不足
- ⑪ 石神井川の臭気

2. 現況・課題の整理 (東西方向の歩行者ネットワーク・地域の分断要素について)



現在JR中央口前のみ地上レベルで通行可

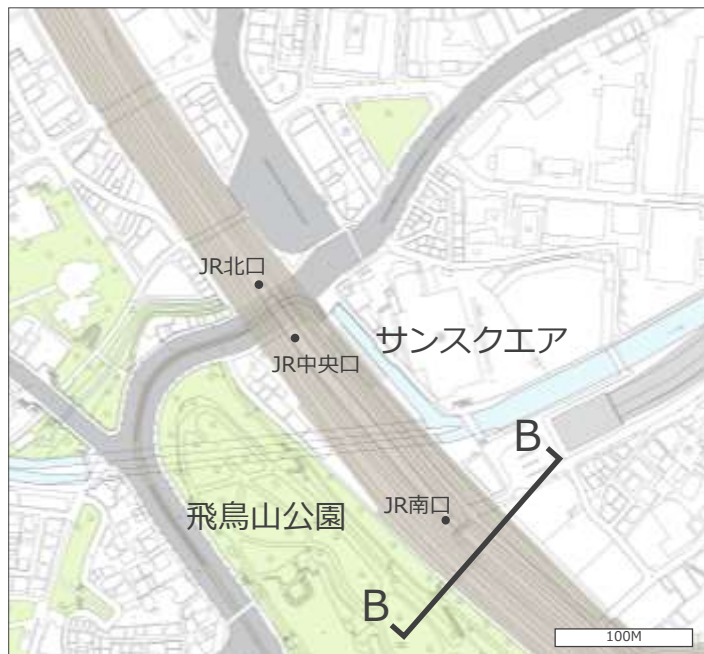
※JR北王子貨物線廃線跡地



A-A : JR中央口付近東西断面図

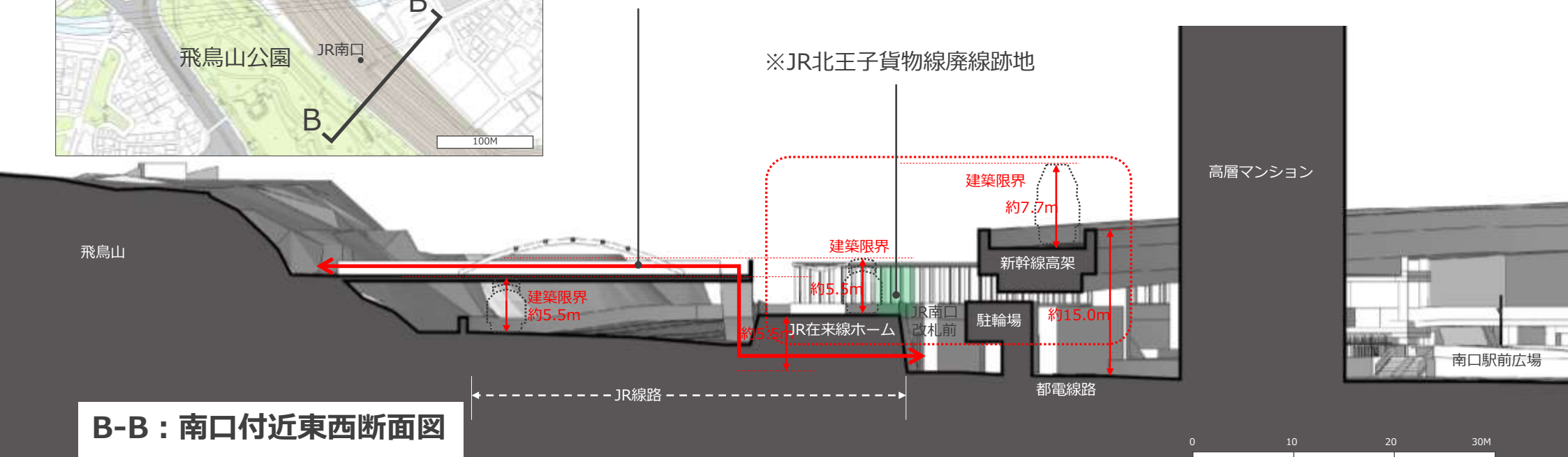
注：本断面図は、地形図と目測などを元に作成した3Dデータをベースとしており、おおよその高さ関係を把握するものとしている。

2. 現況・課題の整理 (東西方向の歩行者ネットワーク・地域の分断要素について)



現在線路上の歩行者デッキによってのみ通行可

※JR北王子貨物線廃線跡地

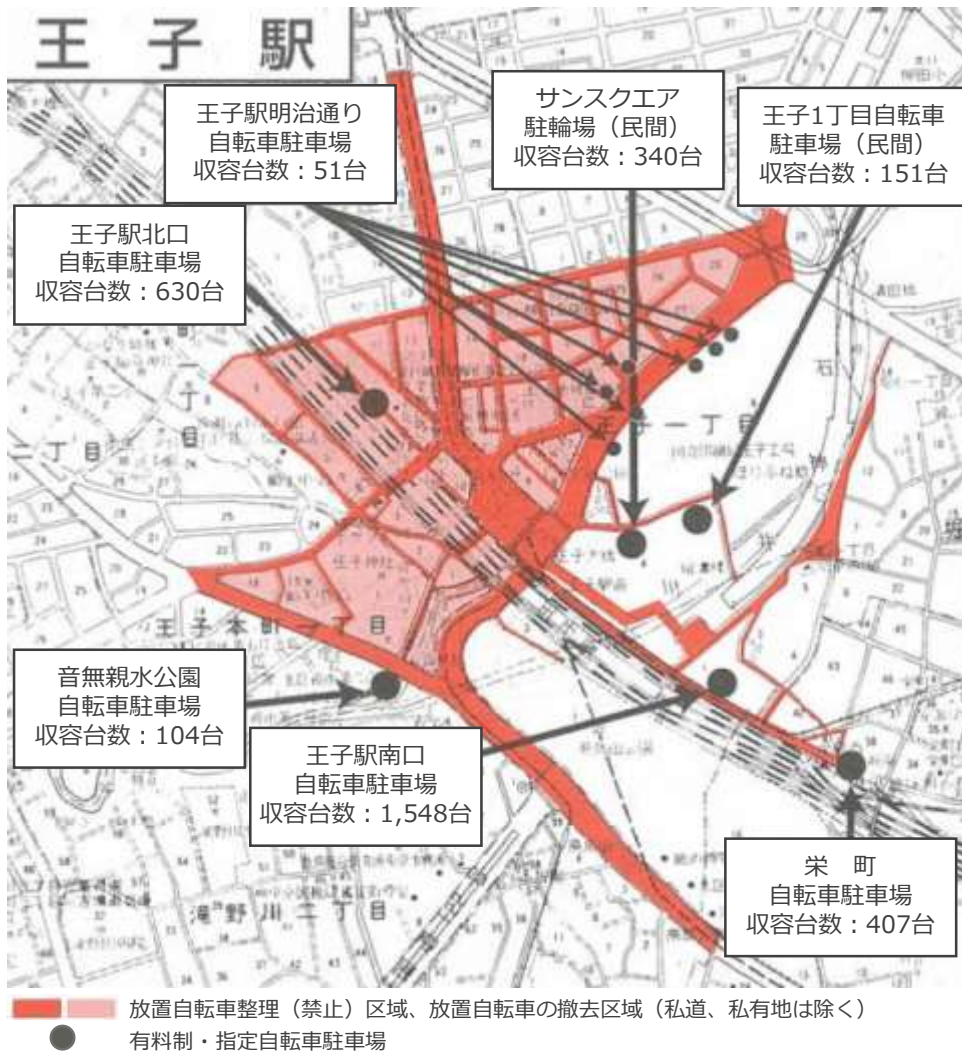


B-B : 南口付近東西断面図

注：本断面図は、地形図と目測などを元に作成した3Dデータをベースとしており、おおよその高さ関係を把握するものとしている。

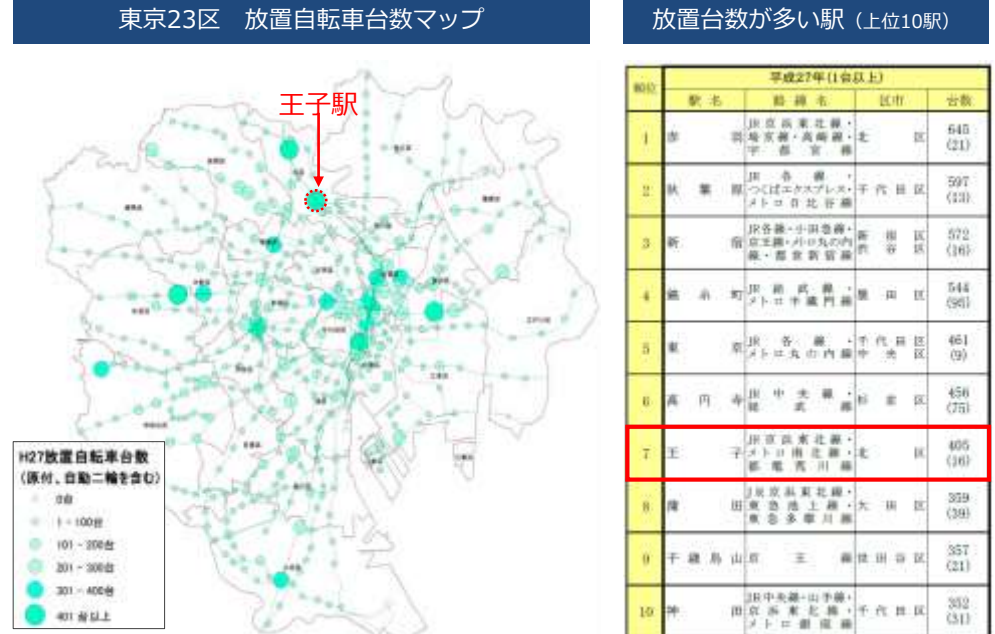
2. 現況・課題の整理 (王子駅周辺の自転車駐車場)

王子駅周辺の自転車対策の現況 ※平成26年4月1日時点



現状王子駅周辺には、約3,200台収容可能な自転車駐車場が整備されている。

王子駅周辺の放置自転車等の現況



出典：「平成27年度調査駅前放置自転車等の現況と対策」東京都青少年・治安対策本部

王子駅周辺において自転車が放置されている様子



路上における放置自転車数が都内の駅の中でワースト7位 (平成27年度調査) にランクインしており、自転車駐車場は足りていない現状である。

3. 検討の方向性の提示

課題

歩行者ネットワーク・地域が分断

- ① 王子駅周辺において、幹線道路により地上レベルでの歩行者動線および地域が分断
- ② 南口広場から飛鳥山への歩行者動線が不十分



検討の方向性

制約条件（広域交通を支える重要幹線）



明治通りの自動車交通



鉄道線路（JR在来線・新幹線高架）

現況の幹線を前提とし、下記に示すパターン比較などを行いながら、立体的な歩行者ネットワークの強化を目指す

A：デッキ案

B：地下案

C：地上案

※具体的な検討は、第2回都市基盤・開発部会にて行う予定

3. 検討の方向性の提示

課題

交通関連施設が分散

- ③ 鉄道出入口（JR、メトロ）、路線・コミュニティ・高速バス乗降場、タクシー・一般車乗降場、都電乗降場などの交通関連施設が幹線道路を隔てて遠く分散

交通空間、歩行者滞留空間ともに不足

- ④ 北口・中央口前において、必要なバス・タクシー・一般車などに対応する交通空間の面積や、利用者数に対する十分な歩行者滞留空間が不足



検討の方向性

目指す方向性

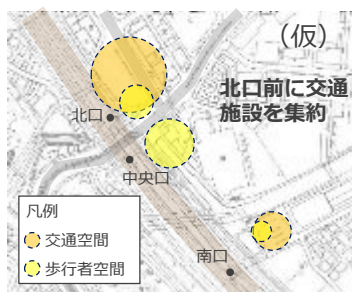
- 交通空間の集約による快適な乗換え空間の創出
- JR各出入口前における歩行者滞留空間の創出

<現況>

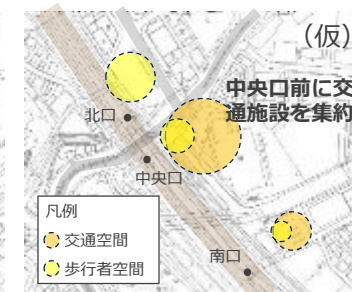


JR各出入口前に歩行者空間を創出することは共通とし、交通施設の集約方法について下記に示すパターン比較などを行いながら、より利便性が高く快適な駅前広場を目指す

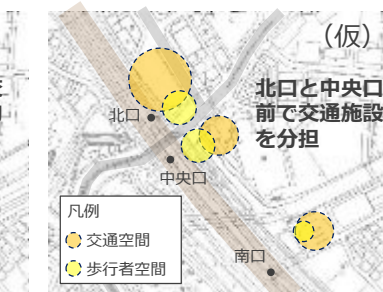
A：交通施設北口集約案



B：交通施設中央口集約案



C：バランス案



※具体的な検討は、第2回都市基盤・開発部会にて行う予定

3. 検討の方向性の提示

課題

地域間をつなぐ道路整備の必要性

- ⑤ 南口駅前広場へのアクセスや、堀船地区西側の防災性を向上させるとともに、堀船方面の住宅地と王子駅前北側地区それぞれから、新庁舎などを含む新市街地へのアクセスを確保する道路の必要性



検討の方向性

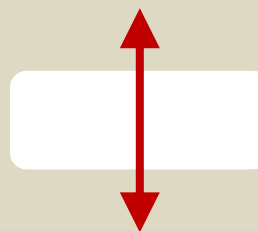
検討事項

- 首都高速中央環状線や南口駅前広場を避け、既設交差点との合流などを考慮した交差点位置
- 土地利用と道路線形の整合
- 石神井川の渡河方法

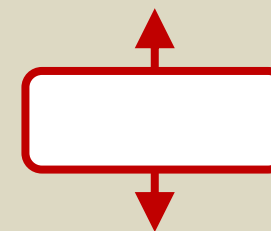
上記事項について検討し、道路ネットワーク、施設へのアクセスなどについて適切な位置および線形での道路整備を目指す

【検討のイメージ】

A：敷地貫通案



B：敷地迂回案



※具体的な検討は、第2回都市基盤・開発部会にて行う予定

3. 検討の方向性の提示

課題

自転車駐車が不足

- ⑥ 王子駅周辺において、自転車駐車が不足



検討の方向性

都市基盤施設の再整備や土地利用の更新などにあわせて、下記に配慮した利便性の高い自転車駐車の整備を目指す

- ・ 公共、施設専用の役割分担
- ・ 自転車ネットワークの結節点となり、公共交通施設への乗換え利便性の高い場所への整備 など

利用目的別の整備例

利用者	駅利用者	駅前施設利用者	
行き先	鉄道駅・バス停等	公共施設	商業・業務施設等
主な目的	通勤・通学等	窓口サービス等	買物・飲食等
利用特性 (一般的な傾向)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期利用が主体 ・ 朝から帰宅時間まで終日利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時利用が主体 ・ 利用時間が長い ・ 複数の施設を移動 ・ 目的地直近に駐輪 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時利用が主体 ・ 利用時間がやや短い ・ 複数の施設を移動 ・ 目的地直近に駐輪
整備の例	公共自転車駐車場	施設専用自転車駐車場	施設専用自転車駐車場

3. 検討の方向性の提示

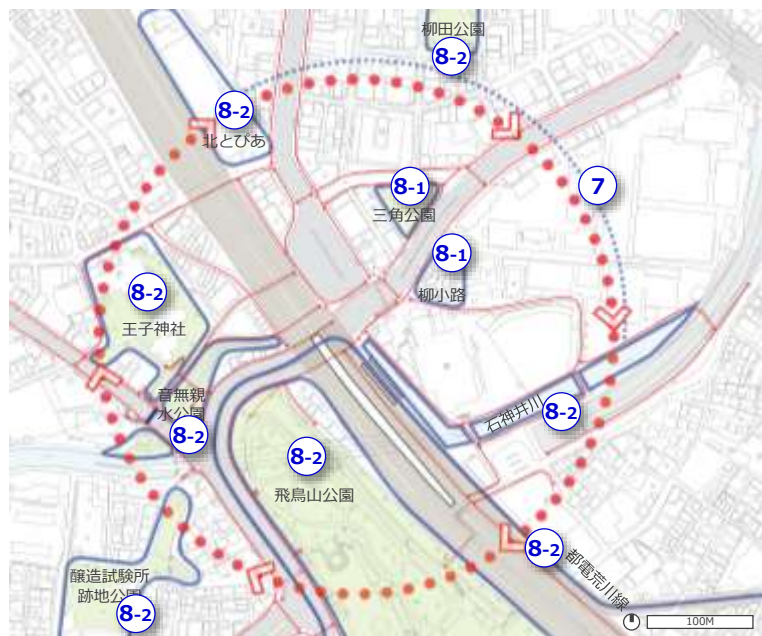
課題

駅前における拠点的功能・魅力的な機能の集積が不足 (※検討範囲は下図参照)

- ⑦ 新庁舎建設を契機に拠点的功能および、魅力的な機能の集積が望まれる

王子を特徴づける資源の活用が不十分

- ⑧-1 まちづくりを視野に入れ、活用について検討
- ⑧-2 資源として保全・活用



検討の方向性

- ・ 新庁舎や商業・業務・教育・宿泊施設など、駅前へのあらゆる来訪者のニーズを満たし、拠点として王子を特徴づける機能の集積を目指す
- ・ 駅前広場の再編とあわせ、機能更新と高度利用の促進を目指す

※導入機能の検討や、都市計画・事業手法の検討などは第2回以降の部会で行うことを予定

資源の積極的な保全・活用を行っていくことで、多様性豊かな王子らしい駅前空間の創出を目指す

【整備の具体展開例】

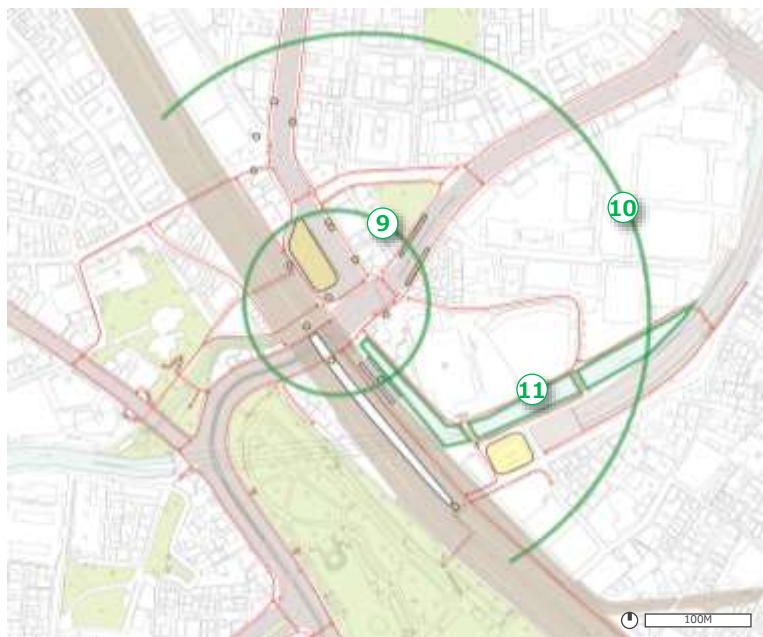
- ・ 柳小路における路地空間の活用、
又はまちづくりを視野に入れた活用
- ・ 駅からのアクセス改善による既存資源の活用

3. 検討の方向性の提示

課題

雑然とした駅前景観

- ⑨ 駅前が道路や交通空間に占有されていることなどによる、雑然とした駅前景観



緑の不足（※検討範囲は上図参照）

- ⑩ 特に駅東側において緑が不足
⑪ 石神井川の臭気

検討の方向性

歩行者ネットワークの形成や交通施設・滞留空間などの整備とあわせて、既存資源を活用しながら特徴ある景観づくりを目指す

【整備の具体展開例】

- 王子を特徴づける飛鳥山や音無親水公園などの景観資源への視認性に配慮した鉄道出入口や滞留空間の配置
- 都電王子駅脇の石神井川旧流路における親水空間の整備、又は蓋かけによる上部歩行者空間など様々な利活用
- 王子駅前の顔づくり

※具体的な検討は、第2回都市基盤・開発部会にて行う予定

歩行者ネットワークの形成や交通施設・滞留空間などの整備とあわせて、積極的に緑化を推進し、河川の臭気対策とあわせて緑豊かな景観づくりを目指す

【整備の具体展開例】

- 歩行者ネットワークの結節点となる場所への緑化推進
- 石神井川の臭気対策と沿道の緑化推進

※具体的な検討は、第2回都市基盤・開発部会にて行う予定

3. 検討の方向性の提示（まとめ）

1. 「交通・駅前空間」に関すること

立体的な歩行者ネットワークの強化（①②）

現況の幹線を前提とし、デッキ、地下、地上それぞれについてパターン比較検討などを行いながら、立体的な歩行者ネットワークの強化を目指す

交通空間の集約による快適な乗換え空間の創出（③）

北口・中央口・南口それぞれの前において、路線バス・高速バス・タクシー・一般車乗降場の集約方法についてパターン比較検討などを行いながら、鉄道出入口と近接した乗換え利便性の高い駅前広場の創出を目指す

駅前において歩行者滞留空間の創出（④）

北口・中央口・南口それぞれの前において、歩行者ネットワークの結節点となる場所への滞留空間の創出を目指す

地域間をつなぐ道路の整備（⑤）

南口駅前広場へのアクセスや、堀船地区西側の防災性を向上させるとともに、堀船方面の住宅地と王子駅前北側地区それぞれから、新庁舎などを含む新市街地へのアクセスを確保する道路の整備を目指す

自転車駐車場の整備（⑥）

都市基盤施設の再整備や土地利用の更新などにあわせて、公共、施設専用の役割分担を適切に行い、自転車ネットワークの結節点となり公共交通施設への乗換え利便性の高い場所への配置検討などを行いながら、利便性の高い自転車駐車場の整備を目指す

2. 「土地利用・都市機能」に関すること

駅前における拠点的機能の充実（⑦）

新庁舎や商業・業務・教育・宿泊施設など、駅前へのあらゆる来訪者のニーズを満たし、拠点として王子を特徴づける機能の集積を目指す

駅前広場の再編とあわせ、機能更新と高度利用の促進を目指す

多様性豊かな王子らしい駅前空間の創出（⑧-1,⑧-2）

資源の積極的な保全・活用を行っていくことで、多様性豊かな王子らしい駅前空間の創出を目指す

3. 「景観・緑」に関すること

個性的な駅前の景観づくり（⑨）

歩行者ネットワークの形成や交通施設・滞留空間などの整備とあわせて、既存資源を活用しながら特徴ある景観づくりを目指す

駅前において緑豊かな空間の創出（⑩⑪）

歩行者ネットワークの形成や交通施設・滞留空間などの整備とあわせて、積極的に緑化を推進し、河川の臭気対策とあわせて緑豊かな景観づくりを目指す

4. 委員からの主な意見

グランドデザインが見据える将来時点について

- 空間的な条件にくわえ、区庁舎整備スケジュールなどを踏まえた時間的な条件も整理が必要。
- あるべき姿をまず検討した上で、20年後の王子の姿をグランドデザインとしてどう記述するかが重要。
- 将来的に、バス利用が増えて後背地がさらに拡大していく可能性についても議論が必要。

検討の前提について

- 拠点地区の範囲は、現時点で限定せずに、課題を広く検討していった最終の結果として決めるものでは。
- 三角公園は開発の種地と見るなど変えられるものは検討に取り入れていく必要がある。

検討の基礎となる情報の整理について

- どこから人が王子に来ているかは把握しておきたい。ODデータなど整理してみたい。
- 歩行者ネットワークについては、通行量も加味して強化すべき箇所などの議論ができれば。
- 駅前広場のどういうところが主だった動線か、現状としてどのあたりが狭く、どこに課題があるか、バリアフリーなど、即地的に明らかにしていったうえで方向性を決めていく必要がある。
- 駅直近の街区などについて、建物の築年数を整理した上で、機能更新・魅力的機能の集積などの議論ができれば。
- 実現性を考える上では、事業者・管理者へのヒアリングも必要では。

検討の進め方について

- 第2回部会は複数案の作成、メリット・デメリットの整理、案の絞り込みを予定しており、グランドデザインの内容を決定する上で非常に重要な会になるため、第2回部会に向けては十分な検討が必要。

検討の視点について

拠点地区整備における大方針

- 整備の方向性を示していくにあたり、個々の課題を個別解決していったら全体としてまとまらない。全体を統合する大方針のようなものが必要では。

4. 委員からの主な意見

2 / 2

検討の視点について（つづき）

ネットワークの検討

- 地域間を繋ぐ道路整備については、木造密集地域における防災性向上の視点も必要。また、地域の活性化やネットワークの向上などの視点を持ってルートを検討すべき。
- 開発する区域だけでなく、地域全体の人と車の流れがわかるとよい。
- 区庁舎にあわせて周辺にどのような整備がされるか、駅の東西にどのようなものがあるか、人はどう回遊するか、歩行者の量だけでなく質の議論も重要。
- 区庁舎という新しいものができたときに、その周囲がどのように良いところになるか、現状分析の先、どのような経路で人が通るか、そこから人がどう回遊するかなどの視点も重要。

交通施設の検討

- 交通施設と歩行者動線は、あわせて検討していく必要がある。
- 交通施設と土地利用（建築）についても、あわせて検討していく必要がある。
- ターミナルとして駅前に路線バスの停留所を集約する場合、特に、王子駅を通過していくバスについて、流動がスムーズにとれるように配慮しなくてはならない。
- 現在北口に集中している利用者を、中央口に分散できればバランスがよくなる。

土地利用・都市機能の検討

- 駅前広場の再編や都市機能の集積などの検討は、区域を限定せずに広く可能性を検討するべきでは。
- 柳小路や駅前広場周辺の街区など、まちづくりへの活用や更新のあり方など検討する必要がある。

次回の検討における重要な視点（事務局まとめ）

1. 拠点性の強化を視野に入れた王子駅まわり全体の将来的なありべき姿
2. 区庁舎移転までのスケジュールの共有と、駅前及び新庁舎周辺の空間や歩行者回遊のあり方

第1回にぎわい・活性化検討部会（6/23）での検討フレーム

事務局からの説明		議論
にぎわい 活性化と	1. 王子のまちづくりが目指す基本的方向性の検討	3. 委員からの主な意見 + 次回の検討における 重要な視点
防災	2. グランドデザインでとりあげる事項・災害危険度や防災関連計画等の整理	

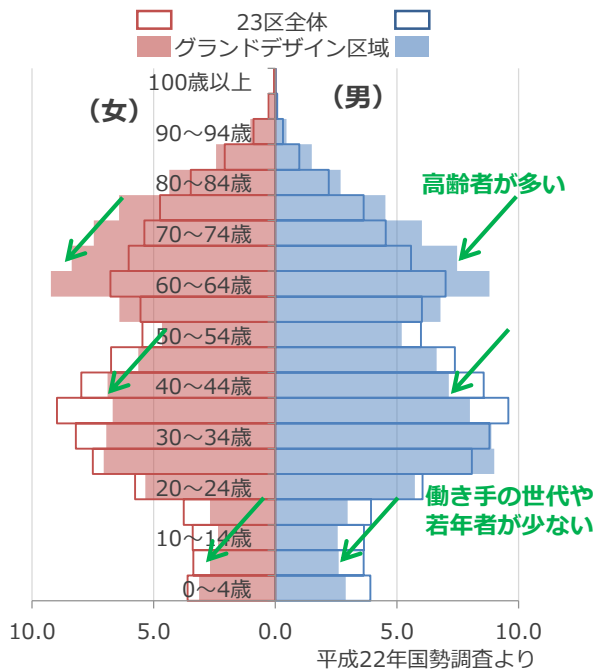
1. 【にぎわいと活性化】王子のまちづくりが目指す基本的方向性の検討

まちへの関わり方の分類	検討テーマ	基本的な方針・戦略	部会資料
居住者等	<p><テーマ1> 居住の場としての魅力 コミュニティの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若者やファミリー層などの定住促進 ・就業や生活サービスなどを担う「身近な拠点」としての機能充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の人口・世帯の状況 ・北区の人口・産業の特徴 ・人口減少や少子高齢化の傾向をふまえた北区の戦略
日常的な来街者 (就業者・買物客、 乗換え客など)	<p><テーマ2> 産業・商業の充実 交流拠点の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性や魅力の強化による「立ち寄り・滞在」や「時間消費」の促進 →商業・業務・生活サービスなどの拠点 的産業力強化 →交流の中心となる広場や公的施設 などの空間確保と質的充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様なにぎわい・交流の場」「産業・商業の場」としての王子のルーツ ・北区産業活性化ビジョン（第三期行動計画） ・拠点形成の参考事例
目的をもった訪問者 (イベント等参加者、 観光客など)	<p><テーマ3> まちの資源の連携・強化 情報発信の戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の回遊性向上、広域連携 ・北区内外の魅力的資源との連携や組み合わせによる情報発信力強化 ・公共的施設の効果的な整備・利活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・北区観光振興プラン ・王子周辺の分野別資源 ・公共的施設の現況、整備・利活用の考え方

1. 【にぎわいと活性化】王子のまちづくりが目指す基本的方向性の検討

王子駅周辺や北区では、**高齢化や人口減少の進行による活力低下が懸念される状況**となっている。

男女別・年齢階層別人口構成



若者の就業率(2010年)

	20歳台・男性	20歳台・女性
中央区	83.0%	77.0%
千代田区	79.7%	品川区 75.5%
墨田区	79.2%	大田区 75.4%
大田区	78.1%	墨田区 74.4%
品川区	77.5%	杉並区 73.0%
江東区	77.2%	江東区 72.0%
江戸川区	75.7%	目黒区 71.9%
全国	75.5%	渋谷区 71.8%
足立区	75.1%	台東区 71.6%
港区	74.4%	港区 71.2%
渋谷区	74.1%	北区 70.9%
北区	73.3%	千代田区 70.9%
台東区	73.3%	23区 70.7%
葛飾区	72.8%	世田谷区 70.7%
23区	72.6%	中野区 70.6%
板橋区	72.2%	板橋区 69.8%
中野区	71.9%	荒川区 69.4%
練馬区	71.7%	東京都 69.3%
東京都	71.1%	葛飾区 69.3%
目黒区	71.0%	練馬区 69.1%
荒川区	70.8%	全国 68.8%
杉並区	69.8%	文京区 68.4%
豊島区	67.8%	豊島区 67.9%
新宿区	67.1%	足立区 67.7%
世田谷区	66.8%	江戸川区 67.5%
文京区	59.6%	新宿区 65.8%

高齢者の就業率(2010年)

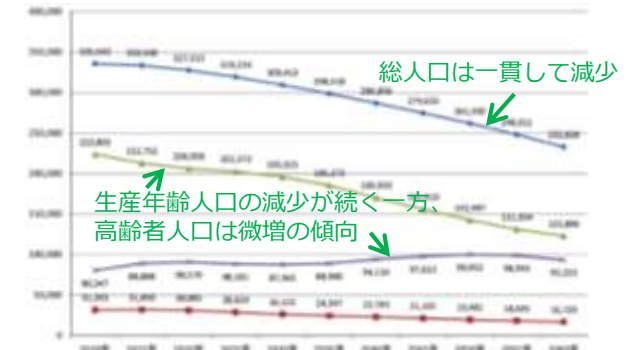
	65歳以上・男性	65歳以上・女性
千代田区	59.4%	台東区 34.0%
台東区	54.2%	千代田区 33.4%
文京区	51.8%	中央区 27.3%
港区	50.7%	港区 26.6%
中央区	49.5%	文京区 26.3%
渋谷区	47.5%	墨田区 25.8%
墨田区	47.3%	渋谷区 25.5%
豊島区	46.1%	豊島区 24.8%
荒川区	45.0%	荒川区 24.4%
世田谷区	44.8%	新宿区 23.5%
新宿区	43.1%	品川区 21.0%
23区	41.2%	江東区 20.9%
目黒区	40.8%	世田谷区 20.7%
品川区	40.7%	23区 20.7%
練馬区	40.5%	葛飾区 20.0%
江東区	40.5%	大田区 20.0%
江戸川区	40.2%	目黒区 19.7%
大田区	39.8%	江戸川区 19.5%
葛飾区	39.7%	板橋区 19.0%
板橋区	38.5%	東京都 18.8%
杉並区	38.3%	杉並区 18.1%
東京都	38.1%	練馬区 18.0%
足立区	36.7%	足立区 17.9%
中野区	35.3%	北区 17.1%
北区	33.7%	中野区 17.0%
全国	31.0%	全国 14.6%

平成22年国勢調査より

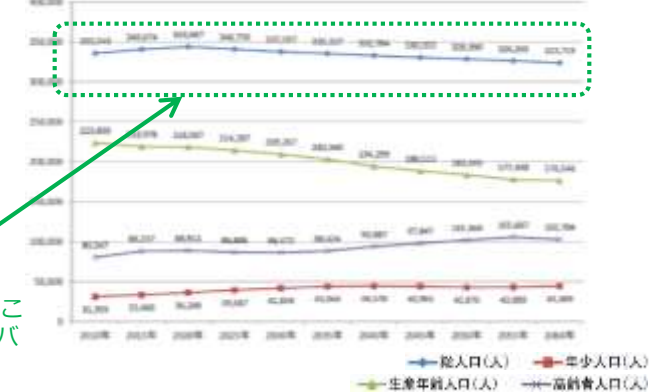
▶ 北区の若者の就業率は23区平均と同水準となっている一方、高齢者の就業率は低い水準。

- ・ 出生数の増加、合計特殊出生率の上昇を促進
 ※北区の合計特殊出生率を仮定
- ・ 子育てファミリー層・若年層の定住化を図ることで、超高齢社会を抑制し、年齢構成のアンバランスを是正
 ※北区の純移動率を仮定

国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づく 北区の将来人口 (出典: 北区人口ビジョン (H28.3))



北区独自推計による将来人口 (出典: 北区人口ビジョン (H28.3))



アクセスしやすい拠点である王子駅を中心に、生活利便・就業・交流などの機能集積を高めることにより、後背地の再生とあわせて「安心して住み続け、活躍できる地域」「新たに住み、働きたくなる地域」を形成することが重要と考えられる

2. 【防災】グランドデザインでとりあげる事項・災害危険度や防災関連計画等の整理

防災に関する東京都や北区の計画

防災への多岐にわたる取組みのうち、本グランドデザインでは、地震・火災等に対する市街地の安全確保（**密集市街地対策**）と、石神井川の**水害対策**の基本的なあり方を中心に検討する。

北区地域防災計画（北区、H24改定）

- 震災対策編 総則
 震災対策編 施策ごとの具体的計画
 第1部 区、区民、事業者等の基本的責務と役割
 第2部 区民と地域の防災力向上
 第3部 安全なまちづくりの実現（中略）
 風水害対策編

東京都地域防災計画（東京都）

- 震災編（H26修正）
- 風水害編（H26修正）
- 火山編（H21修正）
- 原子力災害編（H24修正）
- 大規模事故編（H21修正）

地震・火災等の課題（市街地の状況、地域危険度）

対象地区内では**堀船1丁目**や**栄町**地区に木造建築が密集しており、**総合危険度が4**となっており、この地域を中心に、市街地の防災性向上に取り組んでいく必要がある。

	建物倒壊危険度 (建物倒壊の危険性)	火災危険度 (火災の発生による延焼の危険性)	総合危険度 (建物倒壊や延焼の危険性)	「災害時活動困難度」を考慮した危険度 (災害時の避難や消火・救助等の活動のしやすさ(困難さ)を考慮した危険性)		
				建物倒壊危険度	火災危険度	総合危険度
王子1丁目	1	1	1	1	1	1
堀船1丁目	3	4	4	4	4	4
堀船2丁目	3	3	3	3	3	3
栄町	3	4	4	4	4	4
西ヶ原2丁目 (飛鳥山公園)	2	2	2	2	2	2

対象地区の町丁目別危険度（危険度大：5←4←3→2→1：危険度小）

防災都市づくり推進計画

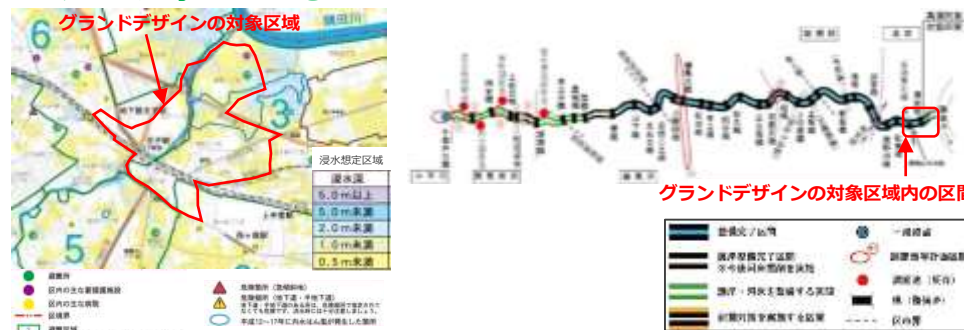
現在、堀船一丁目や栄町地区については**整備地域としての位置づけがない**が、今後指定を行っていくことなども視野に、道路整備や不燃化・耐震化の基本的な考え方を整理することが必要である。



出典：防災都市づくり推進計画（東京都、H28.3改定）

石神井川の水害対策

低地では石神井川の氾濫等の危険があるため、**石神井川全体の計画との整合を図りながら、地区としての必要な水害対応を図っていくことが求められる。**



出典：北区洪水ハザードマップ（隅田川・石神井川等が氾濫した場合）

出典：石神井川河川整備計画（東京都、H28.3）

3. 委員からの主な意見

目指すべきまちの方向性などについて

- ・ 王子は、商業で大々的にやるまちというよりは、行政施設などに来る人たちのまちでは。
- ・ 20年と言わず、100年先を見据えた計画としてほしい。
- ・ 地元の人が現状に満足せず、意欲をもってまちづくりに取り組むことが重要。

検討の範囲について

- ・ 王子二丁目なども対象に入れ、北本通り沿いなどの周辺も見直して欲しい。

都市基盤・開発部会との連携について

- ・ もうひとつの部会における基盤検討の動きを共有しておきたい。

検討の視点について

まちへの関わり方

- ・ 居住者と商売をしている人のため、それぞれ今の人か将来の人か、二軸で見えていくと良い。
- ・ 今の人たちだけだと、にぎわい創出には明らかに足りない。今だけでなく将来の居住者や就業者を含めて考えては。
- ・ 昔から住んでいる人と新しく入ってくる人で王子に必要な魅力についての考えは異なるかもしれない。
- ・ 住んでいる方は消費者でもある、といった視点も重要。

他地区との連携

- ・ 北区内のほかの地点とWin-Winの関係をつくらないと、区民の合意形成が難しい。
- ・ 豊島区の文化の拠点や、板橋区とのスポーツ関連の展開など、隣接する地域と連携する発想もあるのでは。

地域ブランディング

- ・ 眠っている多くの素材をよく魅せるための、場所・見せ方・ストーリーが王子には欠けている。

にぎわいの創出

- ・ にぎわい創出には、民間の活力を導入し、人・モノ・お金が動くようにすることが重要。
- ・ 人だけ集まってそれでおしまいとはならないにぎわいのあり方が必要。

3. 委員からの主な意見

検討の視点について（つづき）

都市機能

- ・ サービス業は残っているが物販業は減少してきている。一般消費者が来れるようにするための対策が必要。
- ・ にぎわいをつくるためには、若者を王子に定着させることが必要。文化的なものやスポーツ関連のものがきっかけとなるのでは。
- ・ 王子を選んで起業する人も増えてきている動きはおさえておく必要がある。

区庁舎のあり方

- ・ 単に区庁舎をつくるだけではにぎわいは生まれにくい。従来型ではない庁舎のあり方の検討が必要。
- ・ 庁舎移転をきっかけとしたにぎわいと活性化の議論がしたい。

基盤整備

- ・ 王子駅前と、堀船・栄町は石神井川を挟んで地域が分断している。人の流れが全く異なり、消防自動車も入れない。地域間をつなぐ道路を整備し、ポテンシャルを活かした開発を誘導していくべきは。
- ・ 都電を動かすなどの大胆な発想も含めて検討をしていくべきでは。
- ・ 防災とにぎわい創出が連動した整備をしていくことが重要。

石神井川のあり方

- ・ 川は王子駅前の有効な資源であり、アメリカのサンアントニオのように観光に活かすことも考えられる。
- ・ 飛鳥山バイパス整備などにより水害対策は進んでいることも踏まえると、石神井川は塞いでもよいのでは。

次回の検討における重要な視点（事務局まとめ）

1. 今の人たちに加え、新たな人が入ってくることを考えたときの、産業・商業や居住等まちのあり方
2. 区庁舎の移転を、にぎわい・活性化につなげるための方策
3. 防災性の向上と、にぎわい・活性化をあわせたまちづくりのあり方

3. 王子のまちづくりコンセプト（案）

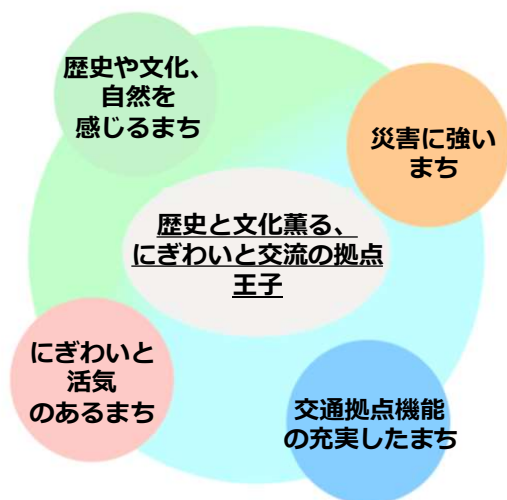
（王子駅周辺地域が目指すべき将来像）

3-1 検討のベースとするたたき案

コンセプト

～ 歴史と文化薫る、にぎわいと交流の拠点 王子 ～

歴史や文化、自然を区民が身近に感じ、災害に強い、商業・業務の経済活動、区民の交流の拠点となる王子のまちの形成をめざします。



○災害に強いまち

- ・「北区地域防災計画」（平成24年改定）における取組みの推進
- ・貯水施設の整備検討を東京都に求めていくなど地域の水害対策の推進
- ・堀船地区周辺に広がる木造住宅密集地域における避難経路・緊急車両確保など災害に強いまちづくりの推進

○歴史や文化、自然を感じるまち

- ・桜の名所として名高い飛鳥山など、古くから人々の憩いや行楽の地として親しまれてきた公園の利用促進
- ・近代からつづき現在も新しい技術や新製品の開発に取り組む洋紙業など、王子の発展を支えてきた産業の尊重
- ・現代に続くまちの歴史や文化、自然を、区民が身近に感じ、誇りに思えるまちづくりの推進

○にぎわいと活気のあるまち

- ・北区の顔となる駅前にふさわしい商業の集積や土地利用の更なる誘導
- ・駅周辺の魅力を高めることで、多くの人々が訪れ集える活気とにぎわいのあるまちの形成の推進
- ・大学の誘致など、教育機関との連携協働を進めることによる産学公の交流拠点の創出

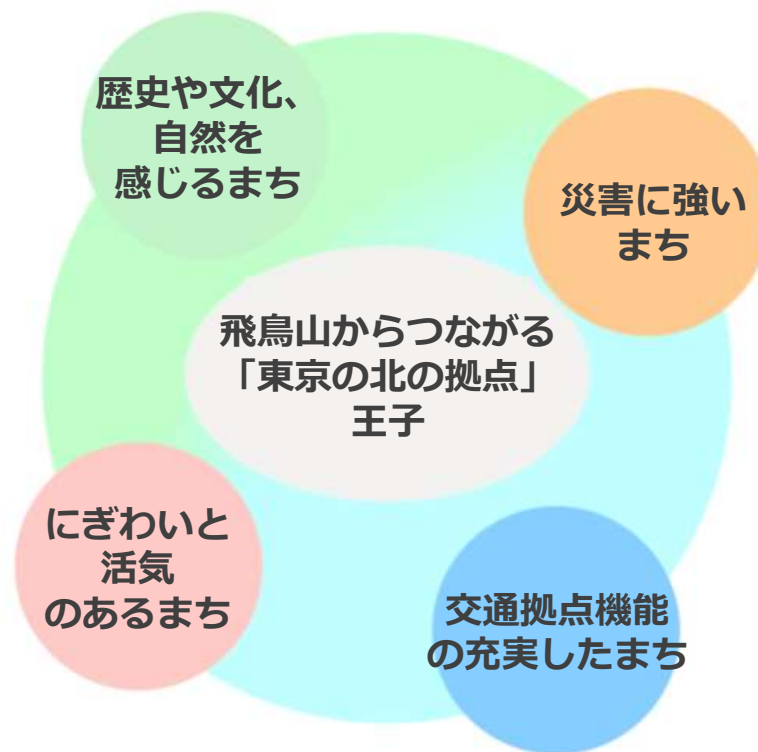
○交通拠点機能の充実したまち

- ・現在の複雑な交通ネットワークを効果的につなぐことによる交通拠点機能の強化等による利便性の向上
- ・王子駅周辺を中心に地域の生活に必要な都市機能（医療・商業等）を集約した生活拠点の形成
- ・首都高速道路中央環状王子線の王子南出入口の利便性を活かした、高速バスの利用促進

コンセプト

～ 飛鳥山からつながる「東京の北の拠点」王子 ～

飛鳥山に抱かれ、交流や産業の中心地となってきた歴史を生きしながら、区庁舎の移転をきっかけとして、東京の北部における個性ある拠点としての価値向上をめざすまちづくりを進めます。



3-2 王子のまちづくりコンセプト（案）

基本方針(案)

○災害に強いまち

- ・ 北区地域防災計画における取組みの推進や、庁舎整備にあわせた防災拠点機能の構築
- ・ 調整池の整備検討を東京都に求めていくなど地域の水害対策の推進
- ・ 堀船地区周辺に広がる木造住宅密集地域における避難経路・緊急車両の通行路の確保等災害に強いまちづくりの推進

○歴史や文化、自然を感じるまち

- ・ 花見文化の発祥地・飛鳥山など、多様な人々が訪れ交流する場としてのブランド力の強化
- ・ 洋紙・印刷業などが王子の発展を支えた歴史や、現在も進化・発展を続ける工場など、産業のまちとしての価値の向上
- ・ 点在する資源を連携し、様々な都市活動の場として利活用する等、個性ある文化都市としての積極的な魅力発信

○にぎわいと活気のあるまち

- ・ 多様な人たちが集まり活躍できる「東京の北の拠点」にふさわしい国際都市の創出
- ・ 機能更新の機会を捉え、土地の高度利用を図りつつ、産業、芸術、歴史・文化、宿泊等の質の高い都市機能の集積を誘導
- ・ 庁舎の移転を契機とし、豊かで魅力ある公共的空間の形成・充実と街の回遊性の向上
- ・ 産学公や町会自治会の連携・協働による継続的なまちづくり推進体制の確立と、大学誘致などによる交流拠点の創出

○交通拠点機能の充実したまち

- ・ 新たな都市機能を支える駅前空間の創出、および周辺街区の機能更新とあわせた駅前広場の再編・拡充
- ・ 主要な交通結節点として充実した公共交通の利点をさらに活かすための、乗換え利便性、まちや施設へのアクセス性や快適性の改善及び向上
- ・ 首都高速道路中央環状線の出入口に近接する立地を活かした、高速バス等の発着点としての機能強化

※今後の検討をふまえた考え方の反映など、さらに修正を行う可能性があります。

4. 第2回検討部会における検討内容

P40・41で整理したコンセプトおよび基本方針を踏まえ、第2回検討部会では以下のテーマおよび重要な視点などに従って検討予定

第2回都市基盤・開発検討部会

第2回にぎわい・活性化検討部会

【テーマ】拠点地区整備の具体的な方向性の検討

- ・歩行者ネットワーク、道路ネットワーク、駅前広場の区域及び機能分担、誘導する都市機能などについて複数提示
- ・各案のメリット・デメリット整理による案の絞込み

次回の検討における重要な視点 (P31)

1. 拠点性の強化を視野に入れた王子駅まわり全体の将来的なありべき姿
2. 区庁舎移転までのスケジュールを共有し、駅前及び新庁舎周辺の空間や歩行者回遊のあり方

連動

【テーマ】駅周辺地域におけるにぎわい・活性化及び防災の具体方策の検討

- ・地域に活気をもたらすハード・ソフトの具体方策
- ・各エリアに期待する役割や機能
- ・防災性の向上の考え方・方策の検討

次回の検討における重要な視点 (P37)

1. 今の人たちに加え、新たな人が入ってくることを考えたときの、産業・商業や居住等まちのあり方
2. 区庁舎の移転を、にぎわい・活性化につなげるための方策
3. 防災性の向上と、にぎわい・活性化を合わせたまちづくりのあり方